

“プリンタのパーソナル化・カラー化に関する業績”

キヤノンは、レーザービームプリンタの開発に続きパソコンの出力をより小型で安価にカラーで実現すべきと考えた。齊藤敬氏を代表とする周辺機器開発センターのグループは、未だ不完全であるバブルジェットプリンティング (BJP) 技術のさまざまな技術課題に取り組み、これらを解決し実用レベルまでに完成度を高めた。そして、その特徴を活かした製品を開発し個人用カラープリンタとしての新しいジャンルを生み出した。さらに、デジタルフォトプリンティングシステム、捺染、カラーフィルターなどの新しい応用分野を創出した。

以下にその業績の概要を記す。

1. 「新しい技術は新しい形で」世に問うべきとの主張からノートブック型プリンタを発案し、BJ10Vとして製品化した。その後、BJC80、BJC600Jと展開し、従来のドットマトリックスプリンタに決別し、パソコンの周辺機器としてプリンタに新しいパラダイムを打ち立てた。すなわち、速くて静か、小型でカラーが美しい、だからプリンティングが楽しい、という新しい価値基準の確立である。
2. 製品化するための技術開発を組織化し統括し、精度が高く、量産性に適したプリントヘッドの製造方法として超精密金型によるプラスチックのモールド成型と、世界で初めての大量生産用としてのエキシマレーザーの実用化とそれを用いたインク吐出口の一括形成法を開発した。
3. 普通紙できれいなプリントを得るためのハイブリッド黒インクとにじみの少ないカラーインク組成、耐水性の高いインクシステムを開発した。
4. バブルジェットプリンティング実用化の大きな壁であったインクの「コゲツキ」発生のメカニズムを解明し、「コゲ」つかないインクの開発とその使いこなしを成し遂げた。

氏の発案による時代を先取りした斬新なコンセプトとそれを実現した技術開発及び事業化に対するリーダーシップによりキヤノンのバブルジェットプリンタの累計出荷台数は4000万台を超え、今や全プリンタの半数がバブルジェット方式である。